

北海道松前沿岸域に來遊するキタオットセイの食性
—漁業被害発生機序の解明にむけた基礎情報の収集

後藤陽子, 堀本高矩, 三谷曜子

2011～2020年に北海道松前沿岸域で採捕されたキタオットセイ94個体の胃内容物を分析し, 主要餌生物を明らかにした。調査の結果, 松前沿岸においてオットセイは, ホッケ, メバル属魚類およびイカ類などの春季における重要な漁獲対象種を主要餌生物としていることが示された。これら餌生物の体サイズは, 商業漁獲物の体サイズと重複しており, オットセイと漁業は同一の資源を利用していると考えられた。ただし, カタクチイワシやマイワシなどの多獲性魚類が來遊した場合には, それらを利用するなど, 漁獲対象種以外の魚種の採餌も認められた。このような食性の動態は長期的なモニタリングにより明らかになることが示された。

A639 北水試研報 107, 1-13 (2025)

北海道西岸日本海における対馬暖流の直接測流と暖流流量の再評価

中多章文, 田中伊織

本道西岸の日本海を北上する対馬暖流の流量や流速をより正確に評価するため, 対馬暖流域の3カ所(M1地点: 1998-1999年, M2地点: 1999-2000年, M3地点: 2001-2002年)で1系3層の直接測流を実施した。2層間の傾圧流速と直接測流による流速差を比較したところ, 渦の通過など特異な海況時を除くと両者の流速差は高い相関を示した。また, 暖流下の深層流(深度2100~2200m)は北上流が卓越しており, 沿岸側の年平均の南北成分流速は北向きに1.7 cm/s, 沖側で7.5 cm/sとなっていた。西方はるか沖の日本海盆内では西向き弱い流れが観測された。基準面深度における年平均の北上流速値から道西日本海での500m以浅の対馬暖流の流量は約1.1Sv過小評価されている可能性が示された。

A640 北水試研報 107, 15-24 (2025)